

## 5 伝統的建造物群

### 指定等

表 1- 117 文化財把握調査で把握した伝統的建造物群-指定等-

No	名称	文化財の種類	指定等	指定等の種類	指定等年月日	員数面積等	所在地	概要	抽出根拠
001	篠山伝統的建造物群保存地区	城下町	国選定	重要伝統的建造物群保存地区	平16 12.10	約40.2ha	西新町ほか	城下町の構成は、城の周間に武士の居敷地を配し、その外側に城下町をつくように京街道(近世の山陰道)が引き込まれ、街道沿いに町人地が形成された。また城下町の入口や要所には寺院が配された。城下町における保存地区の範囲は、国指定史跡篠山城跡とその周間に町割りされた旧武家町、旧商家町からなる。旧武家町は篠山城の外堀に面して上級武士の長屋門を残し、城の西に位置する南北の通り-御徒士町通りには天保元年(1830)の大火直後後に重建されたとされる茅葺入母屋造りの武家屋敷を残し、通りに面して土蔵と櫓門を配す。旧商家町は、江戸時代末期から大正期に建てられた町屋を連たんして残す。商家町の主屋は、切妻造妻入が主で、正面に下屋庇をつけ、二階窓上には主屋庇まで延びた特色ある庇をつける。天下普請による篠山城跡を核とし、武家町や商家町の町割りを残すなど、近世の城下町の基本的構造を良く残すと共に、近世から近代にかけて建てられた武家屋敷や商家及び寺院など、城下町の要素を全体としてよく残す、その歴史的風致を良く今日に伝え、全国でも価値が高い町並みであると評価される。	「篠山市の指定文化財」篠山市教育委員会 「丹波篠山ふるさと応援団アンケート」 「兵庫県指定歴史的景観形成地区」兵庫県HP

### 指定等以外

表 1- 118 文化財把握調査で把握した伝統的建造物群-指定等以外-

No	名称	文化財の種類	北緯	東經	概要	抽出根拠	保存主体	保存取組	保存課題
001	八上地区	街道集落	35° 03' 58"	135° 14' 56"	八上城(安土・桃山時代)の城下商店が反映した。城下街道(はりま街道)は京都から山陰道へ通過する道との分岐点になっていたため、再々市が開かれた。13軒の屋号が残る。	「丹波篠山ふるさと応援団アンケート(2名)	-	-	言い伝えを知っている人が少なくなく継承できない状態にある。 資料があればよい。
002	福住地区	街道集落	35° 04' 19"	135° 21' 16"	福住地区の町並みは、宿場町と農村集落という2つの類型に分類できる町並みが、ともに近世から近代にかけて建てられた妻入民家を主体として形成され、それが旧街道にそって断続的に約3.5kmにわたって続いている。さらに周間に広がる田畠や山並みなど集落を取り巻く自然環境も近世の景観の雰囲気を色濃く残し、かつて民俗行事も伝統的なあり方を現在まで継承するなど、建造物・自然・文化の全てがよく保存された非常に貴重な価値を持つ町並みである。	「篠山市福住地区伝統的建造物群保存対策調査報告書」篠山市教育委員会	-	-	-
003	迫入集落	街道集落	35° 06' 35"	135° 07' 19"	但馬・播磨・へぬる籠ヶ坂筋の南麓にあたり、本陣があり、宿駅として繁栄したが、元禄年間篠山城下町の繁栄策の一環として町屋の移転等があり、町立ては廃止された。宿駅はその後も存続。屋号が3つ残っている。	「住民アンケート	個人	-	-
004	古市地区	街道集落	35° 01' 17"	135° 09' 19"	武庫川上流、北の脇谷山、南東の中山に挟まれた狭隘な鞍部に位置し、東西約1kmの町並みの両側ともに武庫やかね街道などがある。	「古市地区景観形成地区指定調査(兵庫県)	-	-	-
005	丸山集落	農村集落	35° 06' 15"	135° 14' 35"	篠山城址の北側、多紀連山の麓の黒岡川の谷奥に位置する絶家屋敷12軒の農村集落。南北を山林に挟まれた細い谷筋に、農地を備つけないよう11軒のトランшеで囲まれた茅葺民家が分布する。傾斜を活かし石積みと一体となった戊亥藪と塗地牌に囲まれ、妻入りや中門づくりの茅葺民家が今も現役として生きている。	「丹波篠山ふるさと応援団アンケート」 集落NPO、LLP	古民家の改修・修繕による宿泊施設等としての活用	-	-
006	上立杭地区	農村集落	34° 58' 56"	135° 07' 39"	上立杭地区は、四斗谷川に沿って細く長く広がる綿密な集落のたたずまいと、点在する巻き藁や石垣の纏うなず陶芸の里としての景観に特徴がある。	「兵庫県指定歴史的景観形成地区」兵庫県HP	-	-	-